

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：13301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12813

研究課題名(和文) 汎アジアの仏教図像学の構築

研究課題名(英文) Constructing Buddhist Iconology in Overall Asia

研究代表者

森 雅秀 (Mori, Masahide)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：90230078

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は仏教美術の画像データのデータベース化とその公開、テキストデータの統一フォーマットへの統合作業というふたつの柱を持ち、それぞれについて研究を進めてきた。研究期間全体を通じて、いずれについても一定の成果を得ることができた。とくに、仏教美術に関する画像データベースを作成し、公開したことで、当該分野の研究環境を著しく進展させ、それを中心とした学際的研究の基盤が整備され、汎アジア的な仏教美術研究という研究全体の目標がある程度達成された。さらに、これらの成果として、アジア全域を視野に入れた密教美術に関する総合的な研究書を複数刊行することで、研究成果の社会への還元を積極的に行うことができた。

研究成果の概要(英文)：This project has two academic targets: (1) constructing the database of the Buddhist art in overall Asia, (2) synthesizing the text data in the unified format. Following these scheme I have promoted the project, especially I developed the database of the Buddhist art including both images and texts. I have made it public on the web in this project. This database resulted in improving the research circumstance of the related academic fields such as art history, Buddhist studies, comparative cultural studies and so on. This fact also realized the basic and challenging purpose of this project, i. e. establishing the methodology of inclusive Buddhist art studies in Asia from the interdisciplinary viewpoint. Furthermore, I could have published several books dealing with comprehensive Buddhist art in Asia from wider perspective. These publications contributed to the return of this project's results to public effectively.

研究分野：インド哲学・仏教学、美術史

キーワード：図像学 データベース 南アジア 宗教美術

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 仏教美術の研究は、これまで主に美術史の領域で行われてきた。そこでは、東洋美術の一分野として、インド美術、中国美術、日本美術といった地域に分けられ、さらに時代やジャンルに従って細分化され、研究が進められるのが一般的であった。しかし当然のことながら、仏教美術は時代や地域、ジャンルを超えて、密接なつながりを持つ。それが細分化されることで、全体像が見失われる傾向にあった。

(2) 仏教美術史の研究が特定の地域や時代にとどまるのは、作品そのものよりも、作品が依拠する文献が大きな壁となっているためである。とくに日本美術史の研究者の中で、インドや中国はもちろん、チベットや東南アジアの諸言語の文献まで、自在に活用できる者はきわめて稀である。

(3) 仏教美術研究は、仏教学においても行われてきた。しかし、そこでは逆に文献資料を偏重する傾向が強く、実際の作例や遺物に対する関心は概して低い。美術を対象としているながら、文献の読解や意味の解明に終始し、実際の美術作品からは距離を置いている。

(4) 本研究は、細分化が進む美術史研究と、作品よりも文献に重きを置く仏教学というふたつの領域に対して、それぞれの長所を生かしつつ、両者の架橋となるような統合的な研究を行う。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究のテーマである「汎アジアの仏教図像学」とは、アジアのさまざまな地域や時代の仏教美術を網羅する、新しいタイプの仏教美術研究である。これまで美術史の領域において進められてきたさまざまな美術作品に関する詳細なデータと、仏教学が蓄積してきた諸言語による文献のデータとを結びつけることによって、仏教美術研究に画期的な発展をもたらす。

(2) 第一に、アジア各地に残されている仏教美術の主要な作品について、網羅的なデータベースを作成する。すなわち、インドを中心とする南アジア(バングラデシュ、パキスタン、ネパール、スリランカ)、中央アジア、中国、チベット、東南アジア、朝鮮半島、日本の各地域に関して、主要な作品の美術史的な情報を、統一的なフォーマットに整える。

(3) 第二に、作品の典拠や図像を解釈するための文献から関連するテキスト情報を抽出し、テキストデータベースを整備する。原文に加えて翻訳も補い、言語的障壁を少しでも軽減させる。さらに書誌情報も加えることで、原典や翻訳書への容易なアクセスを可能にする。

(4) 第三に、作品と文献に関するこれらのふたつのデータベースを統合することで、階層的なデータベースへと発展させ、さまざまな分野の研究者がシームレスに利用できる環境を整える。

## 3. 研究の方法

(1) アジア各地に残されている仏教美術の主要な作品について、網羅的なデータベースを作成する。さらに、作品の典拠や図像を解釈するための文献から関連するテキスト情報を抽出し、テキストデータベースを整備する。そして、これら二種のデータベースを統合し、文献と作例の双方向からのアクセスを可能とし、さらに両者をシームレスに横断できる情報プラットフォームを作成する。おそくとも、研究期間の中間点でその成果を公開し、国内外の研究者の使用に供することによって、随時検証し、質的向上を図る。

具体的な研究のプロセスは以下のとおりである。

(2) アジア各地に現存する仏教美術の主要な作例について、各作品の名称、主題、規格(法量)、素材、制作年代、制作地、所蔵者(あるいは所在地)などの基礎的な情報を整理し、その上で、それぞれの作品の図像上の特徴や描かれている内容について、詳細なディスクリプションを行う。すでに刊行物として発表されている作品については、掲載する文献の書誌情報を明記し、それぞれの作品の先行研究に関するデータも加える。これらの文字情報を画像データのメタデータとして付加した画像データベースを作成する。

(3) 画像データの公開に際しては、所蔵者や撮影者の著作権等を侵害することがないように十分配慮し、公開用のデータと非公開で扱うデータとを峻別して研究を進める。

(4) 図像情報を含む文献から、当該箇所を抽出し、統一的なフォーマットに整理する。対象とする文献は、図像を直接扱う儀軌などにとどまらず、説話図の情報源となる文学作品や律文献など、仏教図像を解釈するために参照されるあらゆる文献を網羅的に渉猟する。

(5) サンスクリット文献とその漢訳經典のように、複数の言語で残るテキストに関しては、双方向の遡及が可能となるリレーショナルなデータベースを準備する。同様に、テキスト原文から現代語訳を参照できるシステムを設計し、古典語の知識を有しない研究者にも活用可能な環境を整える。さらに多言語対応の検索システムも導入し、さまざまな言語からのアクセスを可能にする。

(6) これらのデータの一部に関しては、すでに収集、整理が完了している。今後、網羅的

にデータの収集を進めるとともに、インターネットでの公開のためのフォーマットの策定とそれへの適合を行う。

上記の二種のデータベースを統合し、文献と作例の双方向からのアクセスを可能とし、さらに両者をシームレスに横断できる情報プラットフォームを作成する。

#### 4. 研究成果

(1)本研究は仏教美術の画像データのデータベース化とその公開、テキストデータの統一フォーマットへの統合作業というふたつの柱を持ち、それぞれについて研究を進めてきた。研究期間全体を通じて、いずれについても一定の成果を得ることができた。とくに、仏教美術に関する画像データベースを作成し、公開したことで、当該分野の研究環境を著しく進展させ、それを中心とした学際的研究の基盤が整備され、汎アジア的な仏教美術研究という研究全体の目標がある程度達成された。さらに、これらの成果として、国際学会において3件の研究発表を行い、国内外の研究者に、本研究の成果をアピールすることができた。また、アジア全域を視野に入れた密教美術に関する総合的な研究書を複数刊行することで、研究成果の社会への還元を積極的に行うことができた。

具体的な成果を以下に示す。

(2)研究期間の前半では、研究代表者がこれまで収集してきた南アジア、東南アジア、東アジア（日本を含む）の仏教美術のデータベース化を進めた。インド、ネパール、チベット、中国、日本、インドネシア等、アジア各地でこれまでに行った現地調査をとおして、およそ3万点の写真資料が研究代表者によって蓄積されてきた。このうち、従来の銀塩写真フィルムで撮影された写真については、保存、公開のためにデジタル化を行った。その上で、各データに関して、名称、法量、素材、所蔵者、図像学的なディスクリプション、関連文献などのメタデータを整理した。

(3)テキストデータに関しては、大正新脩大藏經に収録されている経典・儀軌類について、それらに含まれる図像に関する記述を収集し、エクセルファイルに整理して、テキスト・データベースの作成作業を進めた。また、サンスクリット文献、パーリ語文献、チベット語文献に含まれる図像学的情報を網羅的に収集した。代表的なサンスクリット文献として、『真実撰経』『秘密集会タントラ』『サンヴァラタントラ』『ヘーヴァジュラタントラ』『カーラチャクラタントラ』などの主要な密教経典や、『サーダナマラー』『ニシュパナヨーガーヴァリー』『ヴァジュラーヴァリー』などの図像学関係の論書があげられる。これらのテキストに含まれる図像情報を抽出し、統一フォーマットに加工した上でデータベース化した。さらに、仏教美術の

基本図書である B. Bhattacharyya, *Indian Buddhist Iconography*, Calcutta, 1958 や、佐和隆研編『仏像事典』吉川弘文館、1962 などから、主要な尊格の基本的な図像学的情報を抽出し、テキストデータの補強を行った。

(4)研究期間の後半は、日本の仏教美術を中心にデータベース化を進めた。国内で開催された過去の主要な展覧会の図録等をもとに、それらに掲載された作品の画像データとメタデータをそれぞれデータベース化した。研究代表者が過去において収集した画像データにこれらの図録等所載の画像データを統合し、それぞれのメタデータや、前年度まで取り組んできた文献資料のデータにもリンクさせた。これによって、特定の作品の基本的情報を一元的に管理することが可能となった。このうち、整理を終えた画像データで、著作権上の問題のないデータについては、メタデータを含め、インターネット上で順次、公開を進めている（「アジア図像集成」Asian Iconographic Resources <http://air-p.jp>）。これをモデルにして、インド、チベット、ネパール、中国などの主要な作品についても、総合的な情報プラットフォームへの統合を順次進めた。

以上のプロセスを経て作成されたデータベースの概念図を以下に示す。

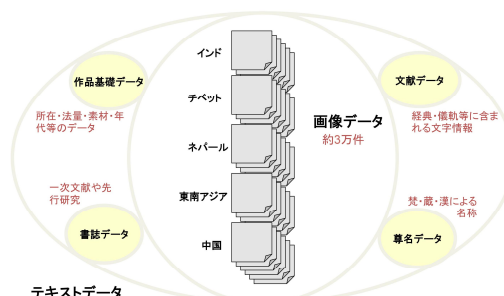


図1 データベース「アジア図像集成」の全体像

(5)この他の具体的な研究成果としては、複数の学术论文に加えて、3点の学術図書を刊行した。そのうち、森雅秀『密教美術の図像学』（法藏館、2017）においては、インド、チベット、ネパール、日本などのアジア諸国の密教美術を取りあげ、その図像学的あるいは文化史学研究を試みた。これらはいずれも、本研究の基層的な研究に位置づけられる。また、仏教の中の女神信仰をあつかった森雅秀『仏教の女神たち』（春秋社、2017）においては、インドから中国、日本にかけて伝播した密教の仏の中で、女性の姿を取る尊格を取りあげ、その図像的な特徴や文化史的背景を明らかにした。それぞれの尊格の図像学的特徴を抽出するために、本研究の情報データベ

ースが活用された。さらに、チベット美術の歴史的展開の概説として、森雅秀編著『アジア仏教美術論集 中央アジア II チベット』（中央公論美術出版、2018）において、総論「チベットの美術」を発表したが、そこにおいても本プロジェクトによって整備された研究基盤が有効に機能している。

(6)学会発表としては、国外で開催された国際学会において、3件の研究発表を行った。いずれも招待講演である。研究期間の終了直後というタイミングで、本研究の成果の一部を海外の研究者に紹介する格好の機会となった。

(7)このうち、ハーバード大学イェンチン・インスティテュートで開催された New Directions in the Study of Tibetan Buddhist Art (チベット美術研究の新たな方向性)では、チベット美術の著名な作品のひとつで、もっとも浩瀚な図像集である『五百尊図像集』(Five Hundred Deities of sNar thang)を取りあげ、その背景にあるインド密教のサンスクリット文献『ヴァジュラーヴァリー』との関係と、チベットにおけるその受容と展開の具体的なあり方を示した。

(8)カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校で開催された The World of Abhiseka: Consecration Rituals in the Buddhist Cultural Sphere (灌頂の世界：仏教文化の領域における加入儀礼)では「インドの灌頂」と題して、アジア各地の灌頂儀礼の根源的な位置づけにあるインド密教の灌頂について講演を行った。密教の儀礼と美術を包括的に扱うことで、従来の儀礼研究や美術研究にあらたな視点を提供し、インド、チベット、ネパール、中国、日本などのアジア各地の灌頂儀礼を考察するための基本的な枠組みを提示することができた。

(9)香港のアジア協会 (Asiatic Society, Hong Kong) において、同協会と香港中文大学、故宮博物院 (北京) との共催で開催された The Silk Road and the Art of the Tibetan Plateau Forum: Pala Art its Influence in China (シルクロードとチベット高原の美術に関する研究集会：パーラ朝の美術とその中国への影響) において、インドのパーラ朝で爆発的に流行した仏伝八相図について、その現存作例の全体像と分類の提示、そして彫刻作品に与えた絵画の影響について報告を行った。

(10)以上3件の国際学会における研究発表はいずれも本研究の画像データベースと文献情報に関する統一フォーマットを活用した結果でもあり、海外の第一線で活躍する当該分野の研究者に、その有効性を示す重要な機会となった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3件)

森雅秀「日蓮と本尊曼荼羅」『霊と交流する人びと 媒介者の宗教史 上巻』(宗教学論叢 21) 査読無、リトン社 2017、pp. 249-270.

森雅秀「ターラーの図像と信仰」『比較文化学文化史学論叢』査読無、第2巻 2016、79-126.

森雅秀「シルブル遺跡の仏教彫刻：ミトゥナ像を中心に」『比較文化学文化史学論叢』査読無 第1巻 2015、59-98.

〔学会発表〕(計 3件)

Mori Masahide, "Eight Life Scenes of Sakyamuni Buddha in Pala Sculptures", The Silk Road and the Art of the Tibetan Plateau Forum: Pala Art its Influence in China, Asiatic Society, Hong Kong, 26-27, May, 2018.

Mori Masahide, "Indian Abhiseka", The World of Abhiseka: Consecration Rituals in the Buddhist Cultural Sphere, University of California, Santa Barbara, 7-8, May, 2018.

Mori Masahide, "A Study of the rDor 'phreng Part of the Five Hundred Deities of rNar thang", New Directions in the Study of Tibetan Buddhist Art History, Harvard-Yenching Institute, 27-28, April, 2018.

〔図書〕(計 3件)

森雅秀編著『アジア仏教美術論集 中央アジア II チベット』中央公論美術出版、2018、567頁.

森雅秀『密教美術の図像学』法蔵館 2017、509頁.

森雅秀『仏教の女神たち』春秋社 2017、272頁.

〔その他〕

ホームページ等

<http://air-p.jp>

<http://air-qa.jp>

[http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp/photo\\_database/database\\_menu/site\\_index\\_neo.html](http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp/photo_database/database_menu/site_index_neo.html)

[http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp/AIR\\_neo/TOPMENU\\_neo/listing\\_neo.html](http://air.w3.kanazawa-u.ac.jp/AIR_neo/TOPMENU_neo/listing_neo.html)

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

森 雅秀 (MORI, Masahide)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：90230078